

“みんなごと”のまちづくり推進事業 まちづくり・お宝バンク 市民協働推進コーディネーター進捗報告



Vol.05
平成29年
7月

コーディネーター：日高由紀

～京都のまちの歴史を記録する“未来のお宝”を守りたい～ 「京都ニュース」フィルム保存プロジェクト始動に向けて

お宝No.219 一般社団法人京都映画芸術文化研究所
(おもちゃ映画ミュージアム)

京都市歴史資料館

広報担当

「京都ニュース」とは…?

昭和31年～平成6年頃まで、京都市内の映画館で本編上映の前に流されていたニュース映像。市役所製作のニュース映画は全国発の取組だった。市政ニュースや季節の風物、まちのトピックスなど5分～10分にまとめた短編構成となっている。



京都ニュースフィルム：缶に錆がつくと周りの缶も巻き込んで劣化してしまうため適切な保管作業が急がれます。

前号でもご紹介しましたが、1950年代～映画館で本編上映時に流されていた「京都ニュース」のフィルムの調査をきっかけに、フィルム保存プロジェクトが動き出します。

映像フィルムの保管専用倉庫を持たない京都市では、その保管方法の検討において専門家を交えてひろく連携して対応する必要があります。全国初の試みで行政が製作した歴史的な価値のあるフィルムを、ひろく活用してもらうために今やらなければならないことを、まちづくり・お宝バンクを通して一般社団法人 京都映画芸術文化研究所の太田氏が提言されました。

現在、京都市歴史資料館の倉庫に保管されている京都ニュースのフィルム（画ネガ、音ネガ）457本の劣化が進んで映写ができなくなってしまう前に、適切なフィルム処置をおこなうことで京都の文化・歴史を刻んだお宝を次の世代に継承するプロジェクトを発足するべく準備を進めています。

今年度は、フィルムの保存缶を全て開封して状態をチェックする作業をおこない、フィルムに付着している薬品の洗浄の優先順位付けをおこなう予定です。フィルム洗浄は費用がかさむため、まずは「京都ニュース」の存在をより多くの市民に知ってもらうようにイベントでの上映機会を増やしながら、京都市と連携して寄付を募るなど多くの人に呼びかけて京都市のお宝を保存するための長期プロジェクトをすすめていきます。

◎オススメ!

「京都ニュース」をご覧になりたい方は、京都市歴史資料館 1F映像コーナーへどうぞ。一部ご覧いただけます。

♫おまけ情報

京都文化博物館にて開催中の「近代京都へのまなざし- 写真にみる都の姿-」(7/1-9/18)にて、会場内で京都ニュースが流されています。

<今後のスケジュール>

・フィルムの状態調査を秋頃に予定しています。救出できるフィルムをなるべく多く残すために、カルテを作成します。



◆ココカラ コレカラ 連携企画◆

「京都ニュース」の再認知度UPを目指して上映機会を創ります

★第一弾 祇園天幕映画祭にて「京都ニュース」上映

7月15日祇園祭の宵々山に毎年開催されている野外映画祭にて、おもちゃ映画ミュージアム推薦作品として1956～59年の「京都ニュース」を上映。

祇園天幕映画祭ホームページ: giontenmaku.main.jp/

★第二弾 京都国際映画祭2017にて「京都ニュース」上映予定

京都国際映画祭の前身である市民映画祭から数えて60年の節目の年を記念して、60年前（1957年）の「京都ニュース」を上映する企画を提案中です。株式会社吉本興業との連携企画となります。

★第三弾 国際博物館会議京都大会2019 (ICOM) にてPR

2019年9月1～7日に日本で初めて開催される「国際博物館会議 (ICOM) 京都大会 2019」(世界約140の国と地域から3年に1度集まって開かれる世界博物館会議。会員数約3万5千人)を絶好の機会とらえて、「京都ニュース」映像を活用することを提案する予定です。

GION TENMAKU FILM FESTIVAL

毎年7月15日(祇園祭の宵々山)に歩行者天国となる四条通(四山火焼一人取付地)にスクリーンを立てて行われ、今年で10回目となり、2つのスクリーンでの上映となります。映画館で観る映画とはまた違う、野外上映ならではの雰囲気を楽しんでください。

スクリーン1 「やぐら」前	スクリーン2 「伝馬町」前
19:30 京都映画センター (16mmフィルム上映)	京都国際映画祭
「やぐら」 1956年長瀬喜伴伍監督、1957年長瀬喜伴伍監督、1958年長瀬喜伴伍監督、1959年長瀬喜伴伍監督	「高杉晋助伝説」(野外上映)
20:35 おもちゃ映画ミュージアム推薦作品	ヨーロッパ企画
「京都国際映画祭の山崎行幸」 10分フィルム10本の単巻上映にも、英語字幕も付いた上映	「ウォーム・アップ・セッション」 今年で10周年を迎えるウォーム・アップ・セッションの10周年記念上映
「1956-59年の京都ニュース」 京都の3つのフィルムを上映する短編映画。映画館でも上映されています。	「京都国際映画祭」 今年で10周年を迎える京都国際映画祭の10周年記念上映

19時30分から21時30分まで
7月15日(土)
祇園商店街にて
京都府立総合資料館(京都市歴史資料館)にて

www.giontenmaku.com
giontenmaku@gmail.com
giontenmaku.jp
giontenmaku

企業×京都のアートをテーマにオープンCAFE開催

お宝No.231 就労移行支援事業所スマイルプラス烏丸御池

お宝No.46 障害者芸術推進研究機構（天才アートKYOTO）

「働くことに障がいのあるすべての人」の就労支援

身体的・精神的な障がいだけではなく、「働くことに障がいのあるすべての人」が働くためのサポート、就労移行支援事業（障害福祉サービス）をおこなっているスマイルプラスが、毎月プレミアムフライデー企画として実施されている「オープンCAFE」。今回は天才アートKYOTOと連携して、会場内に作品を展示してみなさんをお迎えしました。

（見た目にはわかりにくい）精神障害を抱えた人、発達障害、引きこもりなど、普段は社会と接点がちにくい環境にいる人と一般の人が集い対話ができる場が「オープンCAFE」です。障がいのある人だけで集まるのではなく、カフェのテーマに関心がある人だれもが参加できるところが特徴です。障がい者雇用をされている企業との連携事業に挑戦されるとのことで、まちづくり・お宝バンクを通して、数社の企業・団体さんとつながっています。



スマイルプラス「オープンCAFE」は、御池通から室町通を上ったところにあるメディカルモール内が会場です。



◆6月30日のオープンCAFEに参加しました

6月のオープンCAFEは「京都の企業×京都の障害者アート」をテーマに開催されました。第一部の講話では「リプトン」「かつくら」「喫茶ばらの木」などの他、菓子舗や惣菜店を全国で展開する（株）フクナガが自社で取り組まれている障害者雇用のお話をしてくださいました。食材や生産者にもこだわり、コロッケやタルタルソース、トマトソース等ほとんどを自社工場で作っておられるそうで、作業スタッフに知的障害をもつスタッフを2名雇用しています。お二人とも12年～15年と長く勤務しており、会社側は毎日の仕事の流れを極力同じ作業とし、包丁をできる限り使用しない等、障害特性に合わせた環境を整備し、お互いにとって働きやすい環境をつくることで多様な人が社会参画できる機会を作っておられるそうです。質疑応答では当事者からたくさんの質問が出ました。

第二部のカフェ（参加費100円）は、ソーシャルマーケティングの手法をつかった問いに沿って対話をする時間でした。提供される様々な種類のお茶は、今回のゲスト（株）フクナガが提供されているリプトン紅茶です。その他にも会場内に障害者福祉施設「アトリエとも」の障がい者アート作品が飾られているなど、ちいさなあたたかい仕掛けもありました。（今回のカフェの様子は、平成29年7月12日京都新聞 朝刊にも掲載されました）

コンセプトは、「詩の朗読と対話を通じて人生に感謝を持ち自分らしく人生を歩むはじまりの場所」

お宝No.227 集くり〜む朗読会

詩の朗読と対話を通じて感謝と自分の人生を紡ぐ場を

昨年度の“みんなごと”のまちづくり推進事業「活動進化プログラム Fundraising（資金調達、仲間づくり）」を受講されたときの学びを活かして、クラウドファンディング（A-portal）に挑戦されました。

「応援の言葉」を詩集にして出版！ 多くの人を笑顔にする活動を応援してください」は、111人の支援者が集まり423%の達成率となりました！

詩をつくっているのは、しあわせニコニコ集くり〜む代表の川東さん。これまでに1300編以上の詩をつくり、毎日facebookで発信し続けています。今回集まった支援金で詩集をつくり、今後のしあわせニコニコ集くり〜む朗読会で活用されるとのことです。「活動進化プログラムでも話が出たが、自分の活動に合ったクラウドファンディングを選ぶことと、コーディネーターの力量によって達成率が変わると実感しました。クラウドファンディングの利点は、発信する事と出会い・支援者を見つける事がまとめてできるところです。」と仰っていました。

単に、詩の朗読をするだけではなく、テーマ（問い）にあわせて参加者自身が選んだ詩を紹介しあい、グループ対話をして詩の内容や言葉、参加者同士の感想を自由に話してもらい、参加することで自己成長をはかるしつらえの朗読会とのことでした。

開催情報はfacebook しあわせニコニコ集くり〜む

ボランティア先生 求ム！
小学生～中学生の学習支援をしませんか

お宝No.228 小栗栖無料塾

地域の子供たちが一緒に学習する場を提供

毎週水曜日に、小栗栖地域で小学1年生～中学3年生を対象にした無料塾を実施していらっしゃいます。現在通っているのは学校も学年も様々な10名ほどです。もっとたくさんの子供を受け入れたいが、現在は深刻な先生不足のため子供の受入れ人数を制限せざるを得ないそうです。

代表の高向さんは「中学生の勉強などは専門的な知識も必要となるため、できれば元学校教員の方、大学生などに来てもらえたら助かります。」と仰っています。地域の有志ボランティアがお金を出し合って実施していますので、謝礼が出せないとのことですが、お近くにお住まいの方や興味のある方はぜひ見学からで構いませんのでご協力いただきたいとのことでした。

☎ 団体への連絡は、ポータルサイト「みんなで作る京都」内のまちづくり・お宝バンク、お宝No.228「小栗栖無料塾」に応援・意見投稿からお知らせください。

また、6月にはお宝No.82京都市小学校退職校長会事務局へ高向さんと一緒にお邪魔し、小栗栖無料塾の現状をお話させていただきました。事務局の河井先生は、様々な地域の学校から集まっている子供達の学習習慣を支援する小栗栖無料塾の活動を「やわらかい支援」と表現され、先生募集に協力くださることにになりました。8月の総会にて活動紹介をおこない、先生募集のチラシを配布していただくことになりました。